

第68回 奈良県河川整備委員会 議事概要

日 時：平成26年3月26日 14:00～16:40

場 所：エルトピア奈良（奈良県中小企業会館） 4F 大会議室

出席者：(委員) 朝廣委員、伊東委員、岩本委員、岡田委員、谷委員、藤次委員、中川委員（委員長）、
前迫委員、和田委員（9名）
（欠席 立川委員、三野委員 2名）（五十音順）
（事務局）県土マネジメント部長、河川課長 ほか7名

議事：(1) 進捗点検のとりまとめについて
（大和川水系平城圏域・・・秋篠川、地蔵院川、蟹川、菰川、能登川）
(2) 大和川流域における総合治水対策について

1. 進捗点検のとりまとめについて

【治水】

前迫委員) 治水の項目で環境、生態系配慮を気にするべきではないかもしれないが、菰川について、「単調な景観にならないように」と意見しているが、それに対する回答が「階段を設置した」は少々気になる。単調な環境を緩和する手立てとは言い難い。

岩本委員) この意見は私が発言したことなのだが、直線状になっている河道に凸凹をつけたらどうか、と言う考えである。階段の設置ではやはり納得しがたい。

事務局) 菰川は河道を下げて治水能力を上げている。河道拡幅は用地取得が必要になり、河道を変化させることは困難である。

岩本委員) ブロックで変化を付けられないものか。低水路の中だけで済む話だと思う。

事務局) 現状ではこうせざるを得ない。今後の改修では考えていきたい。

中川委員長) 単調にならない川づくりは知恵を出せば出来るのではないか。例えば一部覆土するとか、工夫の余地はあると思う。

事務局) 検討していきたい。

伊東委員) 秋篠川の第2 中山橋下流の護岸について、景観に配慮しているとは個人的には思いにくい。景観への思い、イメージが共有できていないと思う。

中川委員長) 蟹川の三面張改修済み区間、未改修の上流の方が自然があって良いのでは、という声もあった。改修区間と同様に進捗するのであるが、イメージが共有できていない。予算の都合フォトモンタージュまでとは言えないが、イメージを共有できる取り組みを考えて欲しい。そして、生態系、景観への配慮に繋げて欲しい。

事務局) 「元々の蟹川はこういう川であった」という整理をして示していきたい。

中川委員長) 例えば蟹川は周辺の水田を買収してアンジュレーションを持たすとか、そういう取り組みは出来ないものか。水を流すだけの川に全てなるのではないかという危惧を持っている。完成形のイメージを共有したい。

和田委員) 蟹川、落ち着かない。佐保川に近く、コンクリートブロックの護岸、道路も近い。狭い川なのに川を渡ることもままならない。住んでいる人の生活の便利さへの配慮が足りないのではないか。地元の方々の便利さへの対策が必要と思う。

事務局) 地元の方々に事前説明しているし、元々橋のあったところは復元している。それ以上の要望は特になかった。

和田委員) 要望がなかったから良いというわけではない。現状不便ではないか。

中川委員長) 事業者側が不便になる点も示して要望を聞くのがあり方ではないか。
事務局) 例えば、富雄川では両側に幹線道路もあることから利便性に配慮して連絡橋を増やしたりもしている。蟹川ではそこまでいけなかった。

朝廣委員) 秋篠川の西ノ京工区、整備が進んでいないが、万葉の花を植えるとか検討して欲しいと言ったと思うが、よろしくお願ひしたい。

事務局) 「住民連携」の項目で対応を示させて頂いている。

岡田委員) 浸水区域が減少しているとあるのに軽減量が「0」となっている河川があるが、その点が理解しにくい。

事務局) 改修できていない所で水を飲み込めないのでシミュレーション上「0」となっている。水の集まり方と改修区間延長は比例しているわけではないので。

中川委員長) 河川改修は通常下流から改修するが、「ここが弱い」という箇所が改修されないと軽減されない。

中川委員長) 河川の図面に出てくる青い線の区間の意味は。

事務局) 青い線の区間は整備計画対象外の区間である。凡例を修正する。

中川委員長) 治水と環境・生態系、景観がリンクするようなコメントが欲しい。

事務局) 今後検討していきたい。

【住民連携・防災】

中川委員長) 防災については他の圏域での取り組みも同じだから意見もこれまで出ていないのだと思う。奈良県下だったらどこでも同じだろうから。

前迫委員) 防災のソフト面、アラームを受けたらじゃあどうしたらいいのか。発信をどう市民の行動に繋げるかについて、今の取り組みを教えて欲しい。

事務局) 昨年9月の台風を契機に水位計を増設して欲しいという要望が高まっている。27年度までに増設したい。なお、アラームメールを受け取ってもどうしたらよいか判らないと思うので改善していきたい。

前迫委員) 市区町村に情報が降り先、どうするかシナリオ、ストーリーを示しているのか。

事務局) 出来てはいない。まずは情報、市区町村長が避難指示を出せるように県の情報提供の精度を高めていきたい。

中川委員長) 県と市区町村との情報のやり取りの上意下達関係は住民には関係ない。県指導で仕組みを作れないか。交流や情報のやりとり。ハードの次の仕組み作りが大切。市区町村との連携。

事務局) 具体的には情報が少ないのが現状。水位計も少ない。雨量計のデータ活用、公報も不十分である。市区町村へ指示を出す仕組みにも手をかけ始めたところである。

中川委員長) 是非進めて欲しい。

和田委員) p44、平城圏域の点検なのに、宇陀市、曾爾村、御杖村の情報を記載している理由は。

事務局) 年1回の県の訓練なので記載させて貰った。

和田委員) 年1回ではなくもっと広い箇所で計画されたい。

事務局) 市区町村の動向までは把握できていないが、県のものとして示している。消防・警察関係者のみ参加の訓練である。

中川委員長) 一般の人が参加している訓練はないのか。市区町村の動向を把握しても良いのではないか。

事務局) 水防に関する訓練等については、極力記載するようにする。

朝廣委員) 住民連携を進めていくことについては、自主的が大切。前よりもきれいになった、水質が良くなったというモチベーションが上がる情報を提供して欲しい。愛護団体だけでなく、周辺住

民に声をかけているのか。年2回の河川清掃以外はどういう活動があるのか。

事務局) お示ししているのは圏域のみのデータである。ここに記載していない一般住民参加のイベントも多々ある。もっと増やしていきたい。

中川委員長) 住民のモチベーション向上の取り組みは。

事務局) 水質が悪かった場所でのゴミ掃除、アンケートの実施、ゴミの回収量の公表、その程度である。

中川委員長) 頻度だけでなくその結果が活動の活性化に繋がらないか。

事務局) 今までやっていない所でやり始めたところもある。そういう所は継続される傾向にあるが、定量的に評価できていない。

中川委員長) 県として、こういう愛護団体の活動を見て、それが川づくりにどう繋がるか、そういう点を見て欲しい。

朝廣委員) ここに示している以外にも清掃活動はしているのか。

事務局) 県主催のもののみを示している。自治体とかのデータは把握しきれていない。今後集めていきたい。

事務局) 一昨年からモニタリング調査に取り組んでいる。子供も参加しやすい形に取り組んでいる。大和川の水質マップなども作成・公表している。

中川委員長) それが大切な点である。特に教育、ゴミ問題に子供が取り組む場所を提供出来ることが大切である。

谷委員) かつば教室の情報とかも出したらよい。

事務局) 見て頂くよう検討する。

伊東委員) この点検票はだれに見せるためのものなのか。

事務局) 県のホームページで公表する。一般の方にも見て貰う。

伊東委員) であればもっとずうずうしく色々良い点を書くべきである。

谷委員) リバーウォッチングのデータも県で整理している。それも住民連携として記載すべきでは。

中川委員長) 例えば、点検票のここをクリックすると情報へリンクされるとか、リレーショナルな形でホームページにアップされると良い。

【環境】

前迫委員) 環境情報図はいつもより有機的・複合的に良くまとまっている。ところで、「指標種」は何を指しているのか。普通種の情報もいくつか上げて欲しい。次の段階として、例えばガチガチのコンクリート護岸とかのハビタット、立地条件との解析をかけて貰えると尚良い。護岸の工夫と生物生育・生息状況との関連とかも示されたい。

谷委員) 普通種は数が多いので、指標種、重要種、外来種とかに絞って乗せるのはそれでよい。どのように示すか相談して貰ってよい。

事務局) 今後もご指導を頂きたい。

前迫委員) 重要種、外来種の種数グラフ1つを載せるだけでも更に良くなる。

前迫委員) 「メダカ南日本型」は外形で確定したものか。それとも遺伝子解析までした結果か。

谷委員) これまでの「メダカ」は、近年の研究で、遺伝子レベルでの相違がはっきりし、「北日本型」と「南日本型」に分類された。種の判定は産地で分類しているのが普通。大和川水系はこの在来の「メダカ南日本型」が多い。すばらしいことである。

岩本委員) 蟹川に関し、「石詰めブロックで植生の復元を図っている」と記されているが、環境情報図では「無植生」であるのはなぜか。また、川底が真っ平らではなく隙間があったが、これも「水域」と表現されているだけである。状況が判らない。

事務局) 判るように工夫していきたい。

中川委員長) 改修区間については工夫した点がどう生物に良い結果となっているか効果を見て行って欲しい。

事務局) 対応していきたい。

前迫委員) 改修済みの菩提仙川、元々はどういう川だったかが判ると良い。5年前はどうだったか。5

年後はこうなった、が判ると良い。改修後の変化が判る写真を載せて欲しい。
朝廣委員) 底生動物の水質階級結果を示しているが、「大変汚い」等の結果について、そのままではいいの
か。水質対策を講じる予定はないのか。
谷委員) (水質階級について補足説明)
中川委員長) 何らかの対策をしていくべきではないか。
谷委員) 治水も大切だが、川の水質も大切。
事務局) 現場の状況を整理の上、対応を示す方向で検討したい。
谷委員) 安易な放流、外部からの持ち込み個体の放流イベントは謹んで欲しい。遺伝子汚染に繋がる。
中川委員) 今日の意見を反映した取りまとめをして下さい。
事務局) 今後していく。

2. 第 67 回委員会議事録について 了承された。

3. 大和川流域における総合治水対策について

谷委員) ため池には絶滅危惧種が生息しているので事前に調査をして頂きたい。
事務局) 検討する。

以上